

Japanese Association of Trombonists JAT NEWS

第 59 号

日本トロンボーン協会会報 2003.3 発行

事務局: 〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14MBS音羽ビル5F プロアルテムジケ内 tel. 03-3943-6677 fax. 03-3943-6659
郵便振込: 日本トロンボーン協会事務局 東京 9-175867

第5回トロンボーンフェスティバル&アカデミー詳細

【第5回トロンボーンアカデミー& フェスティバル詳細】

開催期日 2003年3月22日(土)~23日(日)
場所 北区滝野川会館(東京都北区西ヶ原1-23-3)
※交通
JR上中里駅or営団地下鉄南北線西ヶ原駅下車 徒歩7分

スケジュール

3月22日(土)

10:00~18:30 アカデミー(講習会)及び発表会

18:45~20:00 講師との受講生との親睦会

3月23日(日)

10:30~17:45 フェスティバルコンサート

18:00~20:30 第8回トロンボーン懇親会

参加料 3月22日 一般 ¥7,000 学生 ¥6,000
(協会員は各¥1,000割引)

※受講料にはグループレッスン、親睦会参加費を含みます
※3/23のコンサート入場券は含みません
※個人レッスン・・・受講料プラス¥2,000で個人レッスンが受講できます

申し込み方法

トロンボーン協会ホームページからアカデミー申し込みフォームに必要事項をご記入の上ご送信ください。参加料のお振り込みのご案内をメールにてお送りいたします。参加料の入金をもって受付とし、受講証を後日郵送致します。申込用紙をトロンボーン協会事務局宛に郵送またはFAXでお送りいただいても結構です。

※定員50名になり次第締め切らせて頂きます

■アカデミーは初心者、初級、中級、上級、ジャズの5クラス準備予定です。

- 初心者: 初めて楽器を持つ
 - 初級: 楽器を始めて6ヶ月以下か1オクターブ程度の音域
 - 中級: 楽器暦3年未満か2オクターブ程度の音域
 - 上級: 楽器暦3年以上か3オクターブ以上の音域
- 以上は大体の目安です。参加後のクラスの移動も可能ですのでお気軽にお申し込みください。
- 初心者から上級者まで一気にレベルアップ!
 - アカデミーでは協会の理事をはじめ有名プロ奏者による充実した講師陣を予定
 - 当日受講生による大発表会を行います。
 - 講師の先生方との親睦会もごぞいます。
 - 23日の第8回トロンボーン懇親会はどなたでも自由に参加できます。オークションあり!
 - 講演会・楽器店ブース・試奏コーナー
 - リペア コーナー
 - 日頃の悩み相談コーナー等設置予定

【23日フェスティバル】

3月23日 フェスティバル
一般 ¥2,000 学生 ¥1,500 (協会員は各¥500割引)
※アンサンブルコンテスト出場希望者は

*トロンボーン・クアルテット・ジバング

Trb. 吉川 武典、桑田 晃、岸良 開城、門脇 賢智志

*向井滋春4トロンボーンズ

Trb. 向井 滋春、佐藤 春樹、中路 英明、堂本 雅樹

Piano 今泉 正明 Bass 山下 弘治 Drums 安藤 正則

*トロンボーンコンペティション上位入賞者コンサート

*トロンボーンアンサンブルコンテスト 他

【トロンボーン・アンサンブル・コンテスト】

トロンボーンフェスティバルの一環としてアンサンブルコンテストが開催されます。年齢、学歴、人数など一切制限無し。どなたでも参加できます。アンサンブルはトロンボーンの大きな魅力のひとつ。これを機会に自慢のハーモニーを発表してみませんか？

◆開催期日 2003年3月23日(土) 10:30～

◆場所 北区滝野川会館(東京都北区西ヶ原1-23-3)

◆参加資格

2重奏～無制限のトロンボーンのためのアンサンブル

※年齢、学歴は問いません。どなたでも参加出来ます

◆参加曲目 演奏時間10分以内の自由曲

◆参加料 1名につきフェスティバル入場券

+コンテスト参加料(¥1,000)となります。

(一般、学生、会員共通)の合計

※例:一般の4重奏で参加の場合(¥2,000+¥1,000)×4名

審査員 永濱幸雄、伊藤 清、三輪純生、他理事より数名
申込受付期間 2003年3月8日(土) 消印有効

申し込み方法 トロンボーン協会ホームページよりアンサンブル・コンテスト申し込みフォームに必要事項をご記入の上ご送信ください。参加料のお振り込みのご案内をメールにてお送りいたします。参加料の入金をもって受付とし、参加証を後日郵送致します。

申込用紙をトロンボーン協会事務局宛に郵送またはFAXでお送りいただいても結構です。

■申込団体が多い場合は予選を行います。

■審査結果は当日発表致します。

■優秀団体には賞状と副賞を授与

■当日の集合時間、場所は後日お知らせ致します。

■演奏順は抽選で決定致します。

●お断り●

会報の発行の遅延により申し込み期日を延長いたしますので振るってご参加ください。

アカデミー・フェスティバル・アンサンブルコンテスト

総合お問い合わせ

〒112-0013 東京都文京区音羽1-20-14-5F プロアルテムジク内 トロンボーン協会事務局

TEL. 03-3943-6677 FAX. 03-3943-6659

pam@proarte.co.jp

編集担当からのお願い

トロンボーンに関する催し・コンサートなど日本国内外かわらずこのインフォメーションコーナーに掲載いたしますので、どうぞ御遠慮なく情報をお寄せ下さい。

連絡・お問い合わせ
日本トロンボーン協会事務局
(郵送に限る)

E-Mail: info@jat-home.jp

HomePage: <http://www.jat-home.jp/>

MOVE?

事務局からのお願い

住所変更

された方はお知らせ下さい。

TEL: 03-3943-6677

FAX: 03-3943-6659

アカデミー・フェスティバル 実行委員長挨拶

実行委員長 郡 恭一郎

全国のトロンボーンをこよなく愛する皆様、如何お過ごしでしょうか？さて、この度「第5回トロンボーン・アカデミー・フェスティバル」を3年ぶりに開催いたします。

3月22日には、アカデミーが行われます。プロ奏者であり、又当協会の役員でもある、講師陣による充実のレッスンで、レベルアップはもちろん、トロンボーンの更なる楽しさを皆さんで実際に体験したいと思っております。(各クラスの予定講師陣＝初心者：村田厚生 初級：山田裕治 中級：三輪純生 上級：萩野昇 ジャズ：西山健治 個人レッスン：首藤健一、井上順平(補佐として、郡 恭一郎、牧瀬 顕利) この日は受講生による大発表会、夜には講師の先生方と受講生の皆さんによる「親睦会」も行われます。

また、23日のフェスティバルではクラシック界から『トロンボーン・カルテット・ジバング』、ジャズ界から『向井滋春4トロンボーンズ』をスペシャルゲストに迎えます。共に今が旬の2団体をメインゲストにお迎えし、今迄にも増して、より一層華やかなフェスティバルになる事と思います。

また新企画として、「トロンボーン・アンサンブル・コンテスト」を同時開催致します！参加資格制限はありません！どなたでもふるってご参加下さい！！各社様のご好意により、豪華副賞も用意されています！(予定審査員：永濱幸雄、伊藤 清、三輪純生、白石直之、村上準一郎、首藤健一、郡 恭一郎)

それから久々の復活となります、各音大トロンボーン専攻生によるアンサンブル及び合同演奏もあります。

・日本トロンボーン学生連盟によるコンサート (以下、今回出演の大学) 武蔵野音楽大学、東邦音楽大学、洗足学園大学、日本大学芸術学部、昭和音楽大学、尚美学園大学、東京音楽大学、国立音楽大学(順不同)

日本トロンボーン・コンペティション上位入賞者によるソロ・コンサートも行われます。

・トロンボーンコンペティション上位入賞者コンサート
第7回(2000年)1位 中村 弥生
ボザ「プレリュードとアレグロ」

第8回(2001年)2位 竹宮 千恵
ギルマン「交響的小品」

第9回(2002年)1位 武内 紗和子
ボザ「バラード」

今回は第5回記念としまして、楽器やマウスピース、楽譜等の展示ブースも非常に充実する予定です。

又、福島ジョーン氏(工房アイルリッヒ)による、マウスピースのレクチャー。村田厚生氏による講演会も予定されています。

協会総会も行われます。どうぞどなたでもご参加下さい。それから全員合奏も行われます。楽器をご持参下さい！

夜には「第8回トロンボーン懇親会」が盛大に行われます！！オークションもあります。どなたでも参加可能です。大いに盛り上がりましょう！

ご質問、不明点、などはお気軽にお問い合わせ下さい。では、皆様のご参加を講師、スタッフ一同心よりお待ちしております。

会長 三輪純生
トロンボーン・アカデミー・フェスティバル実行委員長
郡 恭一郎 実行委員
細谷道生 牧瀬顕利

トロンボーンコンペティション 結果報告

第9回日本トロンボーン・ コンペティション結果

12月1日(日) 午前10:00より洗足学園大学清ノロキャンパスで協会主催のコンペティションが行われ、45名の参加者の中から下記の入賞者が選出されました。(敬称略)

- 第1位 武内紗和子 聖母学院高等学校(京都)
ヒンデミット「ソナタ」
第2位 藤原功次郎 兵庫県立西宮高等学校(兵庫)
シューベック「ソナタ」
第3位 三田博基 兵庫県立姫路飾西高等学校(兵庫)
ザクセ「小協奏曲」
奨励賞 東川暁洋 高松市立高松第一高等学校(香川)
シューベック「ソナタ」
柳澤雄介 八王子高等学校(東京)
ボザ「序奏とアレグロ」

審査員長：永濱幸雄
審査員：
岸名和巳、郡恭一郎、白石直之、関根五郎、箱山芳樹、

角田健一、中村博邦、萩谷克己、春山和雄、前田保、
松本熙、三輪純生、山田祐治、和田美亀雄



(1位 武内紗和子さんの演奏(本選))



(入賞者には賞状のほか、協賛各社からたくさんの副賞が
プレゼントされました)



(結果発表を待つ本選出場者のみなさん(ドキドキ・・・))

協賛：(株)河合楽器製作所、真田貿易(有) (株)セン
トラル楽器、(株)ダク、(株)ネロ楽器、野中貿易(株)、
ブージー・アンド・ホークス(株) (株)プリマ楽器、
(株)山野楽器、ヤマハ(株) (株)ヤマハミュージック
横浜

協力：洗足学園大学、プロアルテムジク、ハラヤミュ
ジックエンタープライズ



特別演奏：箱山芳樹(日本フィルハーモニー交響楽団首席
奏者) 高良仁美(ピアノ)

トロンボーンコンペティション

日本トロンボーン協会ではトロンボーン音楽振興と若い優
秀な人材育成を目的として毎年「トロンボーンコンペティ
ション」を開催しています。これは若いトロンボーン奏者

のためのコンクールで、18歳以下ならど
なたでも参加できます。

過去の入賞者はすでに海外のオーケストラで
プロ奏者として活躍している人や、海外コン
クールなどに入賞を果たすなど輝かしい実績
を上げています。

(写真左から

奨励賞 東川暁洋さん、柳澤雄介さん、
1位 武内紗和子さん、2位 藤原功次郎さん、
3位 三田博基さん)



ムジカムンダーナ 来日演奏家等と共演

<ベン・ヴァン・ダイク編>

2002年7月6日(土)に東京文化会館小ホールにて行われたムジカ・ムンダーナ&ベン・ヴァン・ダイクの特別演奏会は、我々のリーダーである井上順平氏とダイク氏が、お互いの使用楽器がドイツ、プレーメンに工場があるティンという事で、数年前から交流があり、ダイク氏の強い要望もあり、実現の運びとなった。当日はゆのみでしか彼の凄さを聞いていない熱心な聴衆の方々が満席、熱気むんむんの中、開演となった。

彼との共演曲は彼のソロにムジカ・ムンダーナが伴奏するという形であったが、彼との合わせは当日の即のみ。後は本番と言う強行軍ながら、彼の素晴らしい演奏は十分に堪能することができた。

彼の凄い所は今回の演奏をお聴きになった方は十分な理解していると思われるが、その圧倒的パワーと共に、P・PPが素晴らしい繊細に表現されている点ではなかろうか？非常にビュアな彼の唇の振動は、ホール隅々まで染み渡る、本当に絶妙な美しいサウンドであった。又常に余裕を持って楽器を操り、音楽的な表現が随所に聞かれた。彼の基礎技術のポテンシャルの高さは大変素晴らしく、流石にアレッシ、リンドバーク、ベッケ、バウスフィールド、ニッツアン・ハロズらと度々ワークショップ等で一緒に演奏しているだけあると感心させられるものだった。

フレーズの歌い回しは、やや好みは分かれる気もしたが、とにかく最初から最後まで今が旬のバス・トロンボーンの世界的名ソリストとしての見事な仕事振りであった。



(写真) 非常に短時間の交流ながら、我々の共演を満喫喜んで演奏するメンバーたち。

下さり、打ち上げでも上機嫌の彼は、会場で興が乗って、コントラバスTribの即席レクチャーも実演を交え、延々と行ってくれた。

ちなみに彼は非常に背が高いが、彼のオケ(ロッテルダム・フィル)のセクションの中では、一番背が低い！のだそう。今回息子さんと共に来日されたが、息子さんは彼より更に、本当に背が高かった！連日のコンサート、公開レッスン、個人レッスン、打ち上げ！の合間を縫って、各地の観光にも余念がなく、大いに日本を堪能された様だ。又ウィーン・プラス・アンサンブルの日本公演にも聴衆として姿を現し、旧交を温め合っていた。

さて前日(7/5)に武蔵野音楽大学構内で行われた彼の公開講座では楽器に吹き入れる息の流し方等をしっかりと説明していて、学生に素晴らしい見本を見せていた。息の流れをとて重視している彼は、その言葉通り、流石に自分の息を自由自在に操り、息づかいが非常に上手いからソフトにかつ、激しく演奏出来るのだと実感した。そして、演奏会当日彼はとても言葉では言い表せない程素晴らしい演奏を聴かせてくれた。(当日の共演曲：ザ・チーフ(J・ステューブス) ア・ビューティフル・ティ(I・レイニンゴウト) ブルー・トバース(T・ベダーソン) 故郷(津崎知之編))



(左から、マニャク、クリストフ、ドレツセル、スローカー)

<スローカー・トロンボーン四重奏団編>

2002年12月18日(水)に調布市文化会館たづくり・くすのきホールにてスローカー・トロンボーン四重奏団とムジカ・ムンダーナとの共演が実現した。メンバー同、共演の日を心待ちにしながら、毎回の練習に励んできた。

彼等とのリハーサルは別の日に一回しか出来なかったが、長旅で疲労困憊のはずの彼等は先に練習をしていた私達に、とても明るく挨拶し、素早く楽器を組み立て4人でウォーム・アップを始めた。まずリップ・バズ→マウスピース・バス、そして楽器でブラクトーンをしっかりと音で鳴らす練習のあとリップスラーで低音から高音まで全調スケールを満遍なく音を鳴らす、それも全て2人ずつ

交互に、お互いの音を確認しながら、という練習。それは急にやった練習ではなく、日頃から常にやっている事だとすぐに確信出来る物であった。

アンサンブル力向上の為の基本的な練習ではあるが、それを常にやり続けることが大切であり、長年継続してやっている事を我々は大変素晴らしいと思った。

そんな彼等と今回の演奏会では3曲ほど一緒に演奏することが出来た。共演自体、大変楽しい一時だった。リハーサルでは、数ヶ国語が飛び交い、ビデオ撮影に熱中するクリストフは(コンサート当日にお子さんが誕生した)日本語がかなり！堪能で、我々を驚かせた。また和気あいあいとした中に、スローカーはツボをついた、ベテランらしい確かなアドバイスをしてくれ、全体をうまくまとめ、我々も大いに勉強になった。マニャクは常にジョークを連発し、場を盛り上げ、ドレッシェルはジャズ系の曲で非凡な才能を披露してくれた。

バス・トロンボーンの名物男、バツハマンが来日不可能だったとはいえ、澄み切った音が常に高い次元で調和している4人は素晴らしい。そのバス・パートはマニャクとドレッシェルが持ち替えて担当し、素晴らしい低音を聞かせてくれた。バロックTrbからモダンTrb迄、10種類近い楽器を駆使する彼らは、どれもこれも慣れ切った素晴らしい持ち替えぶりだった。特にマニャクは5-6種類の楽器を自由自在に持ち替え、どの楽器も素晴らしい音とテクニックで、驚きと感動を語っていた。レパートリーもバロックから映画音楽まで、楽しい演出を交え、サービス精神に溢れ、かつ、正統的な演奏で、満員の聴衆を大いに魅

了した。スローカーは56歳の円熟した音と歌い回し、又いまだに華麗なテクニックで、健在振りをアピールしてくれた。当日の聴衆の方々はトロンボーンを聞き慣れないと思われる方も多くいらつしやるように見受けられたが、大変盛り上がった会になったのは、我々も勇気づけられた。打ち上げは居酒屋で、大いに盛り上がり、又の再会を固く誓って別れた。最後に今回の共演の機会を作って下さった、プロアルテムジケの皆様は深く感謝したい。(当日の共演曲：フランス・ルネッサンス舞曲集(C・ジェルベーズ) ラッパ吹きの日(L・アンダーソン) サウス・ランパート・ストリート・バラード(8・クロスビー)

ムジカ・ムンダーナ・トロンボーン・アンサンブル(1989年結成。世界でも希少なソプラノからコントラバス迄、全てのトロンボーンを駆使する、プロ・トロンボーン合奏団):HP <http://sky.zero.ad.jp/yun/>

2004年には結成15周年を迎える「ムジカ・ムンダーナ・トロンボーン・アンサンブル」では今後もこの様な意欲的な公演を行っていきたくて考えております。本年秋頃には第8回定期演奏会も予定しております。

レポート

郡 恭一郎(シエナ・ウインド・オーケストラ楽員代表
昭和音楽大学、東京ミュージック&メディアアーツ尚美、
国立音楽院、各講師 日本トロンボーン協会常任理事)



コンサートを終えて

イーストマン音楽学校に入学して

リチャード・ヘネブリー

昨年の9月よりイーストマン音楽学校 (Eastman School of Music) に入学したリチャード・ヘネブリーです。今現在はトロンボーン演奏科を専攻しています。まだ手続きは済んでいませんが、来年度からは音楽教育科との二重専攻も考えています。

今でもイーストマンで勉強していることがちょっと不思議な感じがします。なぜかという、ちょうど一年前に音楽を仕事にすると決心したばかりだからです。

中学校3年間は音楽関係の仕事に就きたいと強く思っていました。夢がころころ変わりました。音楽の先生、指揮者、大したメロディーが今も出てこないのに作曲家(笑)と…。やはり小学校から入っていた吹奏楽部の影響がかなり強かったと思います。しかし3年間音楽に没頭していたのにも関わらず、なぜか高校に入ると夢がころんと英語の先生に変わりました。そのころはよく「音楽じゃ食っていけるのは一握の人だけだよ」とか「音楽は趣味にしておいた方が楽しいよ」なんてよく言われました。だから自然と将来は安定した生活を重視するようになって、自分にとって他の人にはないものを探していたら…その答えが「英語」でした。

でも高校2年の時に出了た東京都吹奏楽連盟主催のアンサンブル・コンテストがそんな考えをやめるきっかけになりました。トロンボーン四重奏として出場して都大会予選で金賞をとって、都大会で銀賞をとりました。この時に学んだ音楽をつくっていく過程とイイ音楽ができた時の喜びが僕の気持ちを一変させました。やっぱり一度きりの人生だし、やりたいことはやらなくてはと思うようになりました。両親も大賛成してくれて、早速レッスンを習い始めました。

こう決心した時はもうすでに高校2年の3学期になっていましたので、今からレッスン受けても間に合わないんじゃないかと正直言って思っていました。ほとんどの日本の音大に入るにはトロンボーン以外にピアノ、ソルフェージュ、聴音のテストがあるからまず無理だろうと思っていたので外国の音大を受けようと思いました。そう思っているうちにトロンボーンの先生が見つかって、なんと運がいいことにその先生の妻がイーストマンの卒業生だったのです。早速イーストマンの話を聞いている

うちにすぐ行きたいと思うようになりました。日本で習っていた先生は東京都にある横浜米軍基地にあるビッグバンドのトロンボニストであるキース・フィッツジェラルド (Keith Fitzgerald) 氏です。先生と奥様のベッツィ (Betsy) はとても温かい夫婦でイーストマン受験をバックアップしてくれました。

確かにトロンボーンテクニックはボロボロでしたが、すごく悪い癖はなかったみたいなのでレッスンの方もスムーズに進みました。Keithさんにはよく「大学側は音色と音楽性を求めるだ」とよく言って、その二つの要素を中心に練習しました。先生の表現の仕方はすごく大胆でわかりやすかったです。Keithさんからは短い期間でたくさんのこと学び、毎週のレッスンが楽しくてありませんでした。そんなKeithさんが先生だったからこそイーストマンに合格ことができたと思っています。

アメリカへ出発する前はかなり緊張していました。他の人はどのくらい吹けるのか気になってしょうがなかったです。あと、やはり8年間日本の学校に通っていたので、日本語がない環境へ行くのがすごく怖かったです。でも2年生が結成するイーストマン・オリエンテーション委員会 (EOC) が温かく迎えてくれて、寮内での新生活の準備もいろいろ手伝ってくれたのですぐ学校に新生活に慣れました。

授業は1週間のオリエンテーションが終わったら始まります。僕の場合は楽典、ソルフェージュとをほとんど入学前は勉強しなかったのでもとっている授業のほとんどは初心者クラスですが、楽典は標準クラスに追いつき同じ授業内容になっています。

ピアノも白鍵のメジャースケールといくつかのマイナースケールとバッハのメヌエットもある程度初見で弾けるようになりました。音楽関係の授業以外に人文系もとらないといけません。週3回1時間の授業があります。この授業ではソクラテスやプラトーなどのギリシャの哲学からSFの名作である「フランケンシュタイン」などテキストを使って授業をしています。授業の基本ディスカッションなので話し合いに参加しないと低い点数をつけられてしまいます。イーストマンでは教養科目にはかなり力を入れていて、毎学期、音楽系以外の科目をいくつかとらなくてはなりません。インターナショナルの生徒は文系の科目を3年になってからとりますが、僕の場合はアメリカ国籍をもっているため国内の生徒たちに混ざって1年から文系科目をとります。イーストマン音楽学校はニューヨークのロチェス



ター大学の中にある学校なので、バスに乗って向こうのキャンパスに行けばロチェスター大学の講義が受けられます。今学期はシェイクスピア文学の講座が人気のようです。

学業の方はこんな感じで忙しいのですが、もちろん演奏もやることが多いです。僕のトロンボーン先生はマーク・ケロッグ (Mark Kellogg) 助教授です。先生はイーストマンで勉強して4年生の時にサンフランシスコ交響楽団に副主席奏者として入団しました。マーク・ローレンス氏と吹いていました。10年くらい前にイーストマンで教えるためにロチェスターに移って、地元のロチェスター・フィルハーモニックの首席奏者を務めています。ケロッグ先生はイーストマンではジャズとユーフォニウムと室内楽を教えています。レッスンは1時間で週に1回あり、毎週内容の濃いレッスンを受けています。先生の音楽の知識が教授のジョン・マーセラス氏に負けないうくらい深い。今は学年末に行われる進級テストで吹くソロを中心に先生にみてもらっています。

レッスンの他にはラージ・アンサンブルと室内楽があります。ラージ・アンサンブルでは楽団が4つあります。イーストマン・ウィンドオーケストラ (EWO)、イーストマン・スクール・シンフォニーオーケストラ (ESSO)、イーストマン・ウィンドアンサンブル (EWE) とイーストマン・フィルハーモニア (PHIL) があります。EWO と ESSO は1・2年が中心で、EWE と PHIL は3・4年のアンサンブルです。今年の ESSO で演奏した大きい作品はドヴォルザークの交響曲第8番やベートーベンの交響曲第3番、PHIL はマーラー交響曲第1番をやりました。EWO と EWE はどちらかというとある程度のテクニックが必要な現代曲を中心に演奏します。各アンサンブルは月に2回演奏会があります。弦楽器は固定ですが、その他はローテーションでメンバーが入れ替わります。吹奏楽を指導するのはハンスバーガーに代わって今年からはマーク・スキヤタデイ (Mark Scatterday) 教授で、オーケストラはアメリカ生まれのドイツ人でヨーロッパで活躍した

ニール・バロン (Neil Varon) 教授が指導しています。二人とも尊敬できる指導者です。

室内楽は週に1度コーチングがあり、好きな編成・メンバーでグループを結成できます。僕はいま金管5重奏をやっています。今年は僕のグループはやりませんが、いくつかのグループは地域にある学校へ訪問演奏しにいけます。室内楽では、ほんとにみんなのパーソナリティが合わないとなかなか長続きしません。1学期でも金管5重奏を今とは違うメンバーとやっていましたが、人間関係がひどかったので(具体的には言いませんが)即解散しました(笑)。幸いなことにいまのグループは仲がよく、音楽面でも共通することが多いです。僕のグループは週に3回集まってリハーサルをしています。

ラージ・アンサンブルと室内楽以外にやっているアンサンブルはイーストマン・トロンボーン・クワイアです。トロンボーン・クワイアはあのウォーム・アップで

も有名なレミングトンが教育の一環としていたものです。現在は25人の生徒が所属しています。ディレクターは教授のマーセラス氏で、大編成のトロンボーン・アンサンブルを週1回集まってリハーサルします。去年はトロンボーン・



クワイアの国際大会で優勝したので、今年は3月にワシントンで行われるイースタン・トロンボーン・ワークショップ (ETW) に招待され、演奏します。

という感じで毎日が大変です。けれど、同じ道を選んだ人たちとともに学んでいくことがすごく楽しくて、刺激がたくさんあります。ここを選んで本当に良かったと思うしこれからの3年間も夢を目指して全力投球で行きたいと思います(笑)

写真について

左から (僕です) (スティーブ・オメルスキー) (コリン・ワイズ) (ジョー・スティール) 後ろの壁画はジョージ・イーストマン (学校の創立者)

コンラッド・ハーウィグ氏に学ぶ タンギングテクニック



はじめに

僕がコンラッドに習っていたのは、ニューヨーク、ブルックリンにあるロングアイランド大学でジャズパフォーマンス科にいた時である。彼は2番目に師事した人で、最初に習ったマーク・バスターソン氏(マリア・

シュナイダー等のバンドで活躍)のクラシック音楽的なジャズへのアプローチ(感情的とでもいうのだろうか)とは違い、非常に複雑なメカニカルな技術(理論的)を丁寧に教えて下さり、その後行ったパークリー音楽院での勉強(作、編曲)に大変役に立った。

彼には97年秋より、98年夏までの1年間師事した。彼の演奏を聴いた事がある人は分かると思うが、何か難しいフレーズを凄く技術で演奏していて、かつレッスンでは、理論的な技術を教えるといえ、非常に気難しい人かと思われるかも知れない。しかし、実は気さくな人で大変優しくかった。

彼の家は当時ブルックリンのはずれにあったのだが、駅まで車で迎えに来てくれたり、マンハッタンまで送ってくれたりした。また、何度か彼の手料理をこっそりになりこれがおいしかった。(といっても夕食会に呼ばれた訳でなく、レッスンの合間に「ちょっと食うか」みたいな程度だが。彼の作るシフォンケーキは最高にうまかった。)ライブも結構誘ってくれたりして、歳が若い(当時37才)せいか、友達みたいな感覚があったのかもしれない。

レッスンはいつも30分のはずが2時間位教えてくれた。というのも最初の30分なんて彼の仕事話(世間話)で終わっていたからだ。これは前回のレッスンから今回のレッスンの間(いつも約2-3週間ごと)に彼がどんな仕事をしてたかを話してくれるわけで、いつも地球を2周位して、いかに自分が忙しいのかをアピールしていた(笑)。

で、レッスンにはいる訳だが、ウォームアップから始まっていると、...

わずか1年であったが2、3年位習っていたかと思う位、

非常にたくさんの事を教えてもらった。その中で今回は、タンギングについて紹介したいと思う。といってもこれが彼が語った全てではなく、かつ僕の解釈での紹介なので、多少の違いがあるかもしれないが、ご了承頂きたい。

A. 理論

(1) 発音する音について。

ダブルタンギング、トリプルタンギング共にドミナントサウンドとリバウンドサウンドの組み合わせ。

・ドミナントサウンド(1音目)一実際に舌を上顎につける事でエアーの流れを一時的に遮断する。普段シングルタンギングでも使用する発音。

子音 T(トゥ)、D(ドウ)、
母音 A(ア)、E(エ)、I(イ)、O(オ)、U(ウ)

・リバウンドサウンド(2音目)一舌は上顎につけず、息を一時的に止める。

子音 K、G、L、
母音 A(ア)、E(エ)、I(イ)、O(オ)、U(ウ)

* リバウンドサウンド時のLの発音について

舌をつけて発音してしまいがちだが、この場合は舌はつけない。例えば「ドウル」と発音してほしい。ゆっくりとしたテンポの場合、舌の位置がダの時は歯の付け根につくが、ルの時にはもっと口の奥で舌とついている。これを早く行った時、舌はダの時について、ルの時には奥へ移動するだけである。つまり舌を手前に移動する事でエアーの流れを止める。

(2) 音域における発音の違い。

母音についてはレジスター(音域)によって使用する音が変わる。

つまり、

低音域 ←→ 中音域 ←→ 高音域
O(オ) — U(ウ) — A(ア) — E(エ) — I(イ)

・・・となりこれは、アタックサウンドの母音とリバウンドサウンドの母音は常に同じである。

例えばアタックサウンドがTでダブルタンギングの場合

ToKoToKo(トコトコ)、TuKu-TuKu(トウクトウク*ツではない)、TaKa-TaKa(タカタカ)、TeKe-TeKe(テケテケ)、TiKi-TiKi(ティキティキ*チではない)となる。

B, 練習方法

1. まず、暇があれば舌を鍛える事。彼は小さい頃スクールバスの中でずっと“ドゥードゥル”を繰り返していたそうである。ちなみに僕は電車の中とかでCDを聴いている時（なんでもよい）、その曲のテンポにあわせて4分、8分、16分、3連と発音（“ドゥドゥドゥ”とかいろいろ）をする様にしている。またこの時リバウンドサウンドだけの発音練習も有効。但し発音といってもあくまでも舌の動きのトレーニングなので、声をだす必要はない。

2. 練習にはアーバンが最適である。トリプル、ダブルタンギングの項（P.162～）も大事だが、P.63、P.93、P.136、P.143も大事。さらに必ずクロマティックスケールの項（P.80）を練習する事。また、他教本、曲等のあらゆるスケール、フレーズをトリプル、ダブルタンギングで試してみる事。テープで録音等行い、シングルとの違いがなくなるまで練習する。

3. 例え早くてもコントロールができなければならぬ。フラッタータンギング崩れのようなでは使えないので、必ずメトロノームを使用する事。その時は1拍に4つの音を入れて練習。また、裏拍でとって練習も行う事。最初はテンポ60位からはじめて、最後には180-200位でできるようになる。（という事はテンポが4分で300-350位の曲なんかもへっちゃらになる。ジャイアント・ステップスだって、チェロキーだって怖くない！！）

4. シングルタンギングも一緒に練習しておく事が大事である。シングルが早くなればなる程、ダブルは早くなる様になる。

最後に・・・

最初のレッスンの時、彼はコルトレーンが演奏している“ジャイアント・ステップス”のレコードを流してコルトレーンのソロと一緒に吹いた後、「じゃ、次回までに同じ事やってきて。」と言われた。僕が「できません。」と言うと、「知っている。だからここへ来たんだろ。」とからかわれたのを今でも強烈に記憶している。それから1年間ずっとレッスン中タンギングはついてまわり、そのおかげで、自分のタイム感、テンポ感というものが変わり、どんなに早いテンポの曲でも難しいと感じる事はなくなった（早いんだけど、早いと感じない）。

凄いいスピードで進んでいる世の中であるが、早いテンポを早いと感じない（ゆっくりと感じる）ようになれば、社会

（曲）全体を広くとらえられるし、リラックスして生活（演奏）ができるようになる。まさに心の癒し（！？）にもなるコンラッド式タンギングテクニック、是非練習してみてもはどうだろうか。



プロフィール

棕野謙介（むくの・けんすけ）トロンボーン、作、編曲

岡山県岡山市出身 関西高等学校にてトロンボーンを大塚宏司氏に師事。
大阪音楽大学短期大学部ジャズ科にて宗清洋氏に師事。
ロングアイランド大学（ジャズパフォーマンス科）にてトロンボーンをコンラッド＝ハーウィッグ、マーク＝バタソン氏に師事。ピアノをデイヴィッド＝ヴァークマンに師事。フルスカラーシップを取得。
パークリー音楽大学（ジャズ作曲科）にてトロンボーンをタイガー大越、ジェフ＝ガイランド、フィル＝ウィルソンに師事。作曲をレイ＝サンティシに師事。作曲でハーブボメロイアワードを受賞。ハーフスカラーシップを取得。

会報編集部より

この会報は日本トロンボーン協会の主旨に添い、内外のトロンボーン奏者、トロンボーン愛好家、音楽ファンを応援すべく発行されています。

会員の皆様の中で会報制作に参加してみたいと思われる方は村上まで御一報下さい。また、情報・質問等もお寄せ下さい。お待ちしております。

会報編集担当

村上 準一郎 TEL&FAX 03-3484-8577

E-Mail: info@jat-home.jp

HomePage: <http://www.jat-home.jp/>